第 ３ 号　**ASHIYA・BOUSAI 会報**　2023･9･1発行

発行人:芦屋防災士の会　発行責任者: 広報部

# 9月1日は、防災の日です

## 関東大震災から１００年

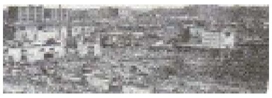
**災害について知ろう!!　考えよう!!　そして備えよう!!**

**災害の多い日本**　『防災の日』は６３年前の１９６０年に制定されました。日本は地震や津波・高潮・台風・豪雨・洪水など自然災害が多いことから、国・地方公共団体及びすべての国民に災害に対する認識を深めるため、内閣府において定められました。

**制定のきっかけ**　今から１００年前の１９２３年に発生した関東大震災の日、９月１日が由来です。制定の決め手は１９５９年の『伊勢湾台風』。この台風は明治以降に襲来した台風の中で他の台風に比べて半分の勢力であったにも関わらず、名古屋市南部を中心に多大な被害を出したため、不十分な防災対策を見直すきっかけなりました。（２年後に災害対策基本法が公布される）

参考：台風の大きさ　９５８.５ヘクトパスカル、瞬間最大風速４７.７メートル

被害　全壊家屋3万6.１３５棟、半壊家屋１１万3.０５２棟、死者5.０９８人



【関東大震災の写真】

毎年、国及び地方公共団体では防災の日を含む１週間を『防災週間』と位置づけ、関係団体が協力して防災の知識を高めたり、普及させたりする各種関連行事の取り組みが全国的に展開されています。

**芦屋市の取り組み**　芦屋市は、南北に長く、山と海に囲まれることから毎年１回、関係機関・団体を中心に土砂災害と地震津波などを想定した市民協働の防災総合訓練に相互に取り組んでいて、当会も積極的に参加しています。今年度は地震津波高波を想定した避難訓練が１月２１日（日）に実施される予定です。（場所未定）

**防災対策の再点検**　『防災の日』を機会にいつ起こるかわからない災害に備えて、防災士をはじめ市民に一人ひとりが今一度、災害に対する認識を新たにするため次の再点検に心がけていきましょう。

◎芦屋市が発行するハザードマップを確認しましょう　◎避難場所と避難ルートの確認しましょう

◎今用意している防災グッズを点検しましょう　◎ご家庭で災害時の対応を話し合いましょう

関連記事：裏面もご覧ください（広報：万谷）

## 知っておきたい防災気象情報と避難行動（気象庁キキクル）

***皆さん　一度、「キキクル」で検索して!!***

キキクル（危険度分布）とは、大雨警報や洪水警報が発表されるような、重大災害が発生するおそれのある状況で、お住いの地域の危険度の高まりを把握する情報です。以下の図は、土砂災害の場合（発表する情報のタイミングと住民の行動）

気象庁等資料による作成

| 気象庁等の情報 | | 市町村の対応 | 住民がとるべき行動 | 警戒レベル |
|---|---|---|---|---|
| 災害切迫 | 大雨特別警報 | 緊急安全確保 | 命の危険、直ちに安全確保 | **5相当** |

⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒　警戒レベル4までに必ず避難 ！　⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 危　険 | 土砂災害警戒情報 | 避 難 指 示<br>（災害対策本部設置・第４次防災体制） | 危険な場所から全員避難<br>（土砂災害警戒区域の外へ避難） | **4相当** |
| 警　戒 | 大雨警報･洪水警報 | 高齢者等避難<br>（第３次防災体制）<br>（避難指示発令できる体制） | 危険な場所から高齢者等は避難（高齢者以外も行動自粛、避難準備） | **3相当** |
| 注　意 | 大雨警報切替可能性が高い<br>注意報 | （第２･1次防災体制）<br>（高齢者避難発令ができる体制）） | 自らの避難行動を確認<br>（ハザードマップ等） | **2相当** |
| 今後の情報に留意 | 大雨注意報<br>洪水注意報 | （連絡体制の確認） | 今後の情報や周囲の情報、雨の降り方に留意する | |

# 広報取材記　今回は岩園小学校校区編です

7月26日（水）午前10時から約3時間にわたって『岩園小学校体育館・避難所開設訓練』が酷暑の中、岩園町、翠ケ丘町、親王塚町、楠町、東山町の各自治会・町会・自主防災会、コミスク、社協など31名が参加。2021年に完成した「岩園小学校体育館・避難所開設・運営マニュアル」をもとに、「まずはマニュアルに沿ってやってみよう」「実施してみて修正や改善、改正点などをマニュアルのスパイラルアップに生かそう」です。

訓練は、各参加者が３か所に設置された防災BOXからカギの取り出しから始まった。全員、体育館前に集合したのち、そのカギを全員で回し見る確認作業から進め、マニュアル作成協議会の伊丹会長から全体の流れを説明され、手順どおりの行動に移った。

各箇所の鍵を持った中心者を先頭に、①体育館の扉の開扉、館内のレイアウトづくり②避難者の受け入れの準備・受付③トイレの使用可否、不可の場合の対応と体育館停電時の外部電源の接続確認を３班が交代でそれぞれ体験した。

また、全員で防災倉庫の備蓄品や装備品を見学して、午前11時30分過ぎに実地訓練が終了した。

その後、全員で反省点や改善点など忌憚のない意見を交換し合い、防災安全課のコメントをもらって解散した。

後に、岩園町自治会事務局＆岩園小学校避難所開設運営協議会推進リーダー納谷様から話合いのコメント記事をいただいたので一部を紹介します。

・「まず、やる、体験する」が狙いの訓練であり、期待どおりのものができた。
・実際の災害時には「誰がリーダーシップを取るのか」が課題である。（今回は顔見知り）
・今回は3班に分かれたが、各町から大勢の参加では班分けを工夫する必要がある。
・昼までは気づかない夜間環境訓練も必要と気づかされた（スイッチの位置など）
・その他多数の意見が出て、今後マニュアル改善に生かすことができる　など

（取材：赤沼理事）

## ～防災士の豆知識～

防災の日にちなんで、関東地方に発生した大地震を知ろう

いづれも海溝型地震である。

**◎関東地震（関東大震災）　大正１２年（１９２３年）９月１日　１１時５８分に相模湾北西部を震源とするマグニチュード７.９が発生。埼玉、千葉、東京、神奈川、山科で震度６を観測、北海道道南から中国・四国にかけて震度5～1。住宅被害は37万棟、死者・行方不明者は約10万5.000人に及ぶ。**

**◎元禄関東地震　元禄１６年（１７０３年）11月23日　１４時ごろ、相模湾を震源とする推定マグニチュード８.２が発生。相模湾沿岸から南房総にかけて震度７～６程度。伊豆半島や房総半島には高さ１０ｍ前後の津波が襲来。死者１０．０００人以上、家屋の全半壊は２万棟以上の被害**

**◎延宝房総沖地震　延宝５年（１６７７年）１１月４日　房総半島東方沖付近を震源とする推定グニチュード8～8.３４が発生。詳しい地震像は解明されていないが、千葉県銚子で津波高17mに記録が残っている。**（各種文献より引用）

## ミニ情報　（海岸線の高潮対策状況）

平成３０年（2018年）9月、台風第２１号に伴う高潮により芦屋市の南芦屋浜、宮川流域において、浸水被害が発生し、床下・床上浸水に見舞われました。これを受け、県が中心となり地域住民説明会を経て、防潮堤の嵩上げ工事（平均約2m）が着工しました。これにより護岸付近は全面閉鎖となりましたが、令和３年（2021年）に一部が完成し、市民・県民に開放されました。また、東護岸の北側やマリーナ護岸など現在進行中のところもありますので、近いうちに他の護岸を含めて全面開放されることでしょう。なお、宮川沿岸の工事は全て完成しており、平成30年の台風第21号と同レベルの高潮が発生しても、潮芦屋地区は今後浸水被害を免れることでしょう。しかし、自然災害は、想定以上のことが起こりえます。特に津波、南海トラフ地震が発生したときは、一目散で逃げることをいつも心がけることが必要です。（N・M）

《編集後記》2023年9月1日現在会員数　105名

コロナが世界中に伝播して以来、世界の社会経済が一瞬にして機能低下に陥りました。人類は、古代昔より細菌のとの闘いを続け、そのたびに幾つの苦難、困難を乗り越えてきました。これからはコロナも人間との共存の世界に進むでしょう。この闘いと同様、自然災害はいつ襲ってくるかも知れない。地球がある限り自然と人類との果てしない闘い。たゆまぬ努力により災害復興を成し遂げてきたことは、ゆるぎない史実ではないでしょうか。我々防災士も常に減殺の知恵をもって、来るべき時に備えることを心の中に刻んでおきたい。さて、今回で発刊は3回目となるが、充実した紙面づくりに努力し、より良い情報を提供してまいります。　編集委員一同